

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	18-b1 コミュニケーションの生物学		
対象学部	工学部・環境科学部		
テーマ責任者	有賀 純	責任部局	医歯薬(医学系)
趣旨	<p>「ヒトは社会的動物である」といわれるように、我々が生きていくうえでは、様々な他者と交流しながら、社会生活を円滑に営んでいくことが不可欠です。このため、ヒトは高度に発達した社会的コミュニケーション能力を系統発生の過程で獲得してきたと考えられています。</p> <p>近年の脳科学の発展により、ヒト同士のコミュニケーションを可能ならしめている生物学的メカニズムが明らかにされつつあります。本モジュールでは、コミュニケーションの基盤となる脳の成り立ち、コミュニケーションに大きな影響を及ぼす脳神経系の病気について最新知見を概説します。また、社会的コミュニケーションの延長線上にある地域文化と保健医療について説明します。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	ヒトのコミュニケーション能力についての生物学的理解は、ユーザーインターフェース設計、BMI(Brain-Machine Interface)などの工学的課題、及び、環境化学物質の脳への影響をはじめとした環境学的問題とも密接な関わりがあります。講義の前提となる知識はその都度解説を加えますので、人間生物学、神経科学について学んだことが無い学生さんも安心して受講してください。		

科目名	担当者名	概要	キーワード
地域文化と保健医療	前田 隆浩 永田 康浩 松坂 雄亮 山梨 啓友	人は様々なコミュニケーションをとりながら社会生活を営んでいるが、その構造や様式・形態は地域社会の人口構成や文化的背景に大きな影響を受ける。地域医療を取り巻く環境が大きく変化する中、地域特性を踏まえながら、地域の保健医療を切り口に人の社会的コミュニケーションの多様性とその意義について学ぶ。	地域医療、社会科学、地域包括ケアシステム、離島・へき地医療、認知症、医療経済、国際保健
脳の成り立ちと働き	有賀 純 中川 慎介 畑山 実 松永 隼人	脳と発達、脳と加齢、脳と再生、脳と進化、脳と血管、脳と病気、脳と治療薬、脳と薬物依存、脳と社会など、ヒトを特徴付ける脳について、多角的に学ぶ。一部の項目については学生が自由にテーマを選び、調査研究して、発表、議論する。	脳の構造、脳の機能、行動、神経疾患、治療、薬、社会性、比較生物学
脳神経の病気	辻野 彰 白石 裕一 立石 洋平 吉村 俊祐	脳神経内科は、脳梗塞や脳出血、認知症、パーキンソン病、てんかんなど、よく耳にする病気から、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、筋ジストロフィー症など聞いたことのないような難しい病気まで幅広く診療にあたっている内科である。本科目において現場にいる医者から直接、脳神経の様々な病気について学ぶことによってコミュニケーションの多様性や重要性を学習する。	脳血管障害、認知症、神経難病、麻痺、感覚障害、失語症、高次脳機能障害、意識障害

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	① 知識・技能	② 主体性	③ 情報リテラシー	④ 論理的組み立て	⑤ 批判的思考力	⑥ 計画力	⑦ 倫理観	⑧ 多様性の理解	⑨ 協働性	⑩ 考えるやり取りする力	⑪ 関心 国際・地域社会への	※授業編成の視点			
												A	B	C	D
												取り扱う 人文科学の内容を	取り扱う 社会科学の内容を	取り入れる 現代的な話題を	アクティブ・ラーニングの活用
地域文化と保健医療	○	○	○			○	○	◎			◎		◎	◎	○
脳の成り立ちと働き		◎	○	○	◎	○				◎		○		○	◎
脳神経の病気	◎	○	○		○		◎	◎						○	◎
◎(特に重視)の数	1	1	0	0	1	0	1	2	0	1	1	0	1	1	2
○(重視)の数	1	2	3	1	1	2	1	0	0	0	0	1	0	2	1

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	18-b2 エピジェネティクスと生命		
対象学部	工学部・環境科学部		
テーマ責任者	伊藤 敬	責任部局	医歯薬(医学系)
趣 旨	ヒトは 1 個の受精卵からスタートし、皮膚、血液、内臓、脳神経などさまざまな組織や器官が分化していきます。人の設計図であるゲノムの DNA 配列には変化が生じませんが、遺伝子発現のパターンは組織や細胞の種類によって異なっています。エピジェネティクスはゲノムをコードする DNA 配列の変化を伴わず、後天的な蛋白や DNA 修飾により遺伝子発現が制御され維持される仕組みを表す用語です。その研究分野を指すこともあります。また、エピジェネティクスの異常は免疫や癌化にも大きく影響します。このモジュールではその一端を学習します。		
学生の皆さんへのメッセージ	前提知識は特に問いませんが、人の発生、免疫、癌化に関心がある方を歓迎します。教室内における参加型学習も一部取り入れますので、受け身の学習態度ではなく積極的な学習態度で臨んでほしいと思います。		

科目名	担当者名	概 要	キーワード
エピジェネティクス	伊藤 敬 中川 武弥 米田 光宏	エピジェネティクス機構には DNA のメチル化やヒストン修飾が関わっていることが明らかにされています。これらの変化は、組織特異的な遺伝子発現に重要な役割を担っていると考えられています。発生分化に伴う転写制御機構の理解や疾患に伴うエピジェネティクス異常に関して学習します。	エピジェネティクス、ゲノム、遺伝子転写
発がん・がん治療とエピジェネティクス	益谷 美都子 山本 一男 増本 博司	がんの発生に伴い、様々な DNA のメチル化やヒストン修飾の異常が起きていることが、がん細胞や動物のモデル、また臨床的な研究から判り、がん治療の分子標的としての研究も進んでいます。これらの視点からエピジェネティクスについて学習します。	発がん、がん治療、エピジェネティクス、エピゲノム
エピジェネティクスと免疫制御、がん免疫治療	池田 裕明	エピジェネティクスは、細胞のがん化や免疫細胞の機能発現にも重要な役割をはたしていることが考えられます。本科目では、これらのエピジェネティクス制御を学ぶと共に近年のがん免疫治療の発展を学習します。	がん、免疫、遺伝子治療、細胞療法、エピジェネティクス

全学モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	① 知識・技能	② 主体性	③ 情報リテラシー	④ 論理的組み立て	⑤ 批判的思考力	⑥ 計画力	⑦ 倫理観	⑧ 多様性の理解	⑨ 協働性	⑩ 考えをやり取りする力	⑪ 関心 国際・地域社会への	※授業編成の視点			
												A	B	C	D
												取り扱う 人文科学の内容を	取り扱う 社会科学の内容を	現代的な話題を 取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
エピジェネティクス	○	◎	○	◎	◎			○		○		○	○		○
発がん・がん治療とエピジェネティクス	◎	○		○	◎			○		○				◎	○
エピジェネティクスと免疫制御、がん免疫治療	○	◎	○	◎	◎	○		○		○		○			○
◎(特に重視)の数	1	2	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
○(重視)の数	2	1	2	1	0	1	0	3	0	3	0	2	1	0	3

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	18-b3 青壮年期における健康課題		
対象学部	工学部・環境科学部		
テーマ責任者	永橋 美幸	責任部局	医歯薬(保健学系)
趣旨	健康とは単に病気がないという状態ではなく、身体的・心理的・社会的・霊的に安寧な状態をいう。また健康問題を考えると病気や障害があってもその人がその人らしく生きられ、社会全体が共に生きる(共生)という視点が重要である。そのためモジュールⅡではモジュールⅠを基礎として、ライフサイクルの中でも特に青壮年期における基本的な健康問題とトピックスについて教授する。		
学生の皆さんへのメッセージ	前提知識は特に問いませんが、健康問題に関心がある方、ほかの人と協働して学習を進めていくことに関心がある方を歓迎します。特に本カテゴリーでは、教室内における参加型学習やフィールドワークも取り入れますので、受け身の学習態度ではなく積極的な学習態度で臨んでほしいと思います。		

科目名	担当者名	概要	キーワード
育児リテラシー入門	永橋 美幸 大石 和代 上野 美穂	妊娠・出産・育児、親子の絆形成、胎児・乳幼児の発育・発達と育児技術について学習し、次世代育成能力を修得する。	妊娠, 出産, 子どもの発育・発達, 育児技術, 長崎県
仕事と健康	松浦 江美 橋爪 可織	仕事は人間に報酬や達成感などの喜びをもたらすが健康問題にも関連している。メンタルヘルスの危機や生活習慣病などの仕事に関わる健康問題について理解する。	仕事, 壮年期, 労働環境, 生活習慣病, メンタルヘルス, 労働衛生
青年期の健康・体力増進	中野 治郎 永江 誠治 平瀬 達哉 本多 直子	青年期にある大学生にとっての健康とは何かを学び、健康・体力増進のためのトレーニング、食生活等について理解する。	健康, 体力, 食事, メンタル, ヘルスプロモーション, 発育発達

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)			⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
育児リテラシー入門	○	◎			○	○				◎	○	○	○		○	○
仕事と健康	◎	○			○	○					◎	○	○	○	◎	○
青年期の健康・体力増進	◎	◎		○	○	○	○					○	○	○		◎
◎(特に重視)の数	2	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1
○(重視)の数	1	1	0	1	3	3	1	0	0	0	1	3	3	2	1	2

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	18-b4 ハンディキャップの理解		
対象学部	工学部・環境科学部		
テーマ責任者	井口 茂	責任部局	医歯薬(保健学系)
趣 旨	<p>障害とは単に医学的な問題だけでなく、心身・活動・参加に関わる生活上の問題として捉える必要がある。そのため、障害を捉えていく上で、障害があってもその人がその人らしく生きられ、社会全体が共に生きる(多様性と共生)という視点が重要である。ここでの「多様性と共生」には、「インクルージョン」、「人権」、「リハビリテーション」も含まれ、子どもから高齢者までのすべてのライフサイクルが対象となる。</p> <p>モジュールⅡ科目ではモジュールⅠを基礎として、ライフサイクルに応じた基本的な障害問題とトピックスについて教授する。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>前提知識は特に問いませんが、障害者・高齢者に関わる生活問題に関心がある方、ほかの人と協働して学習を進めていくことに関心がある方を歓迎します。特にモジュールⅡでは教室内だけの学習活動にとどまらずフィールドワークも取り入れますので、受け身の学習態度ではなく積極的な学習態度で臨んでほしいと思います。</p>		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
共生へのチャレンジ	村田 潤 東嶋 美佐子	疾病・事故・加齢等に伴う心身機能の障害やそれらに惹起される生活障害について理解するとともに、共生のための環境作りや工夫について考察する。	生活障害 リハビリテーション 福祉機器
老いと健康	井口 茂 横尾 誠一 田中 浩二	加齢に伴って起こる心身の変化と健康・生活問題について理解する。また、フィールドワークを通して、高齢者の意識について考察する。	高齢者の心身の健康、高齢者の生活、介護予防
障害体験と支援	東 登志夫 中尾 理恵子 平瀬 達哉	各種障害の疑似体験を通して障害を理解し、支援の必要性について考察する。	障害、高齢者、支援、斜面

全学モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	※授業編成の視点				
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的思考力	計画力	倫理観	多様性の理解	協働性	する力	考えをやり取り	国際・地域社会への関心	A 取り扱う 人文科学の内容を	B 取り扱う 社会科学の内容を	C 現代的な話題を 取り入れる	D アクティブ・ラーニングの活用
共生へのチャレンジ		◎	○	○	○	○		◎	◎	◎	◎				◎	○
老いと健康	○		○		◎		○		◎	○	◎	○	○	◎	○	
障害体験と支援	○	○					○	◎	◎						○	◎
◎(特に重視)の数	0	1	0	0	1	0	0	2	3	1	2	0	0	2	1	
○(重視)の数	2	1	2	1	1	1	2	0	0	1	0	1	1	1	2	

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	18-b5 現代経済と企業活動c		
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	徐 陽	責任部局	経済学部
趣 旨	現代社会の安定と繁栄は、限られた資源を有効に活用し生活水準を維持発展させる仕組みとしての経済活動のもとに成立している。こうした経済の仕組みを、その原理や制度、歴史的変遷など幅広い観点から考察することにより、複眼的で幅広い視点を獲得することを目的とする。本モジュールの履修により、経済学や経営学の基本的分野の学習をすることが可能となる。		
学生の皆さんへのメッセージ	前提知識はとくに問わないが、経済や企業について広い関心を持ち、これらの分野の基礎知識の習得意欲を持つ者、自発的・積極的に学習を進めていく姿勢のある者の受講を希望する。また、新聞やネットに掲載される日々の経済や経営に関するニュースに耳を傾ける努力を怠らなければならぬ。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
国際社会と日本経済	長谷川 実也	経済のグローバル化が進展する中、貿易自由化の進展及びその課題、食料安全保障、知的財産権の保護、地球温暖化対策などの環境保護、資源・エネルギー問題など、日本を取り巻く国際社会の課題について考察する。	グローバル化、貿易自由化、食料安全保障、環境保護、等
社会制度と経済活動	神菌 健次	金融市場が、消費者や企業の活動に、どのような機能を果たしているかを多面的に考察する。また、金融市場が効率的に作用するための制度・法律面に関する考察も行う。	市場 金融取引 金融制度
経営情報と会計情報	徐 陽	企業活動の目的は営利である。しかし、利益の額は、計算してみなければわからない。ここに会計の主観性があり、これを秩序立てるために制度がある。この講義では、会計情報(財務諸表)の意味や見方を説明する。	財務諸表 会計制度 経営分析 長崎関連企業等

全学モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	※授業編成の視点				
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的思考力	計画力	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	関心	国際・地域社会への	A	B	C	D
													取り扱う 人文科学の内容を	取り扱う 社会科学の内容を	取り入れる 現代的な話題を	アクティブ・ラーニングの活用
国際社会と日本経済	◎	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○	◎		◎	◎	○	
社会制度と経済活動	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	
経営情報と会計情報	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	○	○	◎	○	○	○	◎	◎	
◎(特に重視)の数	3	3	0	3	2	2	0	0	0	1	1	0	2	2	1	
○(重視)の数	0	0	3	0	1	1	3	3	3	2	2	2	1	1	2	

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	18-b6 現代経済と企業活動d		
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	赤石 孝次	責任部局	経済学部
趣旨	現代社会の安定と繁栄は、限られた資源を有効に活用し生活水準を維持発展させる仕組みとしての経済活動のもとに成立している。こうした経済の仕組みを、その原理や制度、歴史的変遷、国や地域間の比較など幅広い観点から考察することにより、複眼的で幅広い視点を獲得することを目的とする。本モジュールの履修により、経済学の体系に沿って統一的に学ぶことが可能となる。		
学生の皆さんへのメッセージ	前提知識はとくに問わないが、経済や企業について広い関心のある者、先人や他者から謙虚に学び、自発的・積極的に学習を進めていく意欲のある者の受講を希望する。また、新聞や日々のニュースに耳を傾け、社会現象に対する観察眼・批判的思考力を向上させる努力を怠らないようにしなければならない。		

科目名	担当者名	概要	キーワード
企業行動と戦略	岡田 裕正	企業は戦略に基づいて行動するが、その前提として、投資意思決定や業績評価とそれに基づく利益計画がある。本科目では、これらの概要と基礎について例題を用いて考察する。	戦略とビジョン 意思決定モデル 業績評価
社会制度と経済活動	赤石 孝次	RESAS(地域経済分析システム)データに基づき地域の現状・将来の課題を分析し、その分析から抽出される課題の解決に向けた対応策をグループで多面的に議論し、地域の課題解決に向けたアイデアを提案する。	RESAS マップ(人口、観光、産業、消費と自治体比較、地域経済循環等)
経営情報と会計情報	林川 万理水	財務情報や経営情報は企業と投資家の意思決定にどのように影響を与えるのか。企業内外の情報の流れと企業活動の関係が緊密化する現代社会の一面を考察する。	投資意思決定 企業情報開示 社会制度決定

全学モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	※授業編成の視点				
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的思考力	計画力	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	国際・地域社会への関心	A	B	C	D	
												取り扱う 人文科学の内容を	取り扱う 社会科学の内容を	取り入れる 現代的な話題を	アクティブ・ラーニングの活用	
企業行動と戦略	◎	○		○		○				○			◎	○		
社会制度と経済活動	◎	○	○	◎	○	○	○	○	◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎
経営情報と会計情報	○	◎		○	○			○		◎		◎		○	◎	
◎(特に重視)の数	2	1	0	1	0	0	0	0	1	2	1	1	2	1	2	2
○(重視)の数	1	2	1	2	2	2	1	2	0	1	0	0	0	2	0	0

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	18-b7 変わり行く社会を生きる 2		
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	西田 治	責任部局	教育学部
趣 旨	社会の変化は、これまで私たちが経験したことのない速さで、かつ大規模に進んでいます。本モジュールでは、私たちの身近に起こっている社会の変化を、芸術活動、文字、音楽という3つの視点から紐解いていきます。そして、変化する社会の中でいかに生きるか、また将来目指すべき社会の姿やよりよく生きる自分の姿について考えます。		
学生の皆さんへのメッセージ	今の社会、ひいては将来の社会の姿を作っているのは、私たち一人ひとりです。しかしその私たち一人一人は異なる意識や視点、経験を持っています。そうした“個”を意識するとともに、社会という“集団”の中で対応する力をつけるべく、本モジュールでは、私たちが生きる社会の変化について学び、これからの社会の在り方について考える機会にしましょう。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
芸術活動と社会	北村 史	現代アートシーンにおいて、地域社会・文化を踏まえ、人々を巻き込む形で実施されるアート・プロジェクトが近年盛んである。それらについて実例を読み解きながら芸術と社会とのつながりを考察する。また、長崎の地域性、歴史、文化を反映したアート・ワークショップのアイデアを受講者と共に考え、つくっていく。	アート・プロジェクト、アート・ワークショップ
音楽と社会	西田 治	音・音楽と人間の関わりがどうであるかについて、参与型音楽、サウンドスケープ、音楽療法、持続可能な社会の4つの視点を切り口として考察していく。体験的な内容を含むが、受講者の音楽の得意・不得意は全く問わない。	音楽、サウンドスケープ、音楽療法、持続可能な社会
文字と社会	鈴木 慶子 中村 文子	人間と社会、及び人間と人間をつなぐ上で、書き言葉の役割について体験的に理解する。	書き言葉、書簡、エントリーシート

全学モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	※授業編成の視点				
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的思考力	計画力	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	関心	国際・地域社会への	A	B	C	D
													取り扱う 人文科学の内容を	取り扱う 社会科学の内容を	取り入れる 現代的な話題を	アクティブ・ラーニングの活用
芸術活動と社会		◎			○	◎		○	◎	◎	◎				○	◎
音楽と社会		◎			◎			◎	◎	◎	○	○	○	○	○	◎
文字と社会	◎	◎	○	◎		◎	○		◎			◎			○	◎
◎(特に重視)の数	1	3	0	1	1	2	0	1	3	2	1	1	0	0	3	
○(重視)の数	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	1	1	1	3	0	

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	18-b8 多様性社会を考える		
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	大橋 絵理	責任部局	言語教育研究センター
趣旨	世界の国々は、交通の発達、インターネットの普及、経済のグローバル化を通して、これまでないほど急速かつ密接に結びついています。しかし、それと同時に格差や宗教、環境など様々な問題も起こってきました。本モジュールでは、これからも広がっていく多様性社会の中で生きるためにどうすればいいかを、日本と欧米の文化を中心に3つの視点、異文化比較、異文化理解、異文化交流の視点から考察します。まず、身近なテーマを比較して現代社会がいかに形成されたかを考え、アクティブラーニングによって批判的思考を高めます。次に様々なコミュニケーションスタイルを理解し、オンラインプログラムによって理論的組み立てを学びます。最後に長崎の異文化交流の歴史を熟考しながら、未来の社会に何が重要かをプレゼンテーションで提案します。		
学生の皆さんへのメッセージ	私たちが生きている現代の社会は、異文化との長い交流の末に形成されたものです。そして将来どのような社会を作っていくかは、みなさんの力にかかっています。このモジュールでは、異文化の歴史を学び、多様性を理解し、アクティブラーニングを中心に、国際化という視点から、知識だけでなく、世界でも通用する理論を組み立て、判断する力を養っていきます。		

科目名	担当者名	概要	キーワード
異文化比較:日本と欧米文化	大橋 絵理 奥田 阿子	前半は日本とヨーロッパの文化を特に「温泉リゾート」という視点から分析し、比較していきます。まず、小説や映画を交えて、古代から現代まで温泉を中心に生まれた神話、恋愛、外交、医療を考察します。後半は「国際結婚」というテーマを通して、各国の社会、文化、宗教 >>> 政治、法律の相違について考えます。そしてグループ学習によって文化や社会の多様性を理解し、他者的な視点からの思考力を高めます。	日本、ヨーロッパ、温泉、神話、恋愛、外交、医療、多様性、思考力、グループ学習
異文化理解の実際	西原 俊明	言語と文化を切り口として異文化理解に必要な視点を身につけることを目標とします。また、異文化間に見られるコミュニケーションスタイルや異性間コミュニケーションスタイルについても考察します。さらに、異文化間コミュニケーションを分析したオンラインプログラムを用いて比較考察します。	言語、異文化、コミュニケーション、オンラインプログラム
長崎における異文化交流	古村 由美子	幕末の長崎に視点を置き、海外との交流を通して、日本が近代化に向かう姿を考察していきます。具体的には、工業技術や医学、薬学などの発展に焦点をあてます。近代化に貢献した人にも焦点をあてて考察していきます。授業後半は現代へと視点を移し、現在長崎でどのように国際交流が実践されているかを調査し、その問題点を考察し、新たな取り組みについて学生が自ら考えて提案します。グループプレゼンテーションにて自分達の考えを発表し、クラス全体で議論します。	近代医学教育 工業技術導入 長崎、幕末、造船、国際交流、地域政策、問題解決、プレゼンテーション

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	※授業編成の視点				
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的思考力	計画力	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	関心	国際・地域社会への	A	B	C	D
日本と欧米文化:共通点と差異を考える	◎	◎		○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎
異文化理解の実際	◎	◎		◎	○	○	○	◎	◎	◎	◎					○
長崎における異文化交流	◎	◎	◎		○	○		○	◎	○	◎	○	○	○	○	◎
◎(特に重視)の数	3	3	1	1	1	0	1	2	3	2	3	1	0	1	2	
○(重視)の数	0	0	0	1	2	3	1	1	0	1	0	1	2	1	1	

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	18-b9 食の安全と持続的な海洋食料資源の利用		
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	松下 吉樹	責任部局	水産学部
趣旨	<p>海洋は生物、鉱物、エネルギーなど様々な資源の宝庫です。環境共生型社会の実現には、これらの貴重な資源を持続的に利用する必要があります。このモジュールでは長崎県で見ることができる事例を織り交ぜながら、海洋生物資源の生産・管理・食用利用、持続可能で効果的な資源利用に関する原理や方法、海洋に対する現代社会の諸課題を学びます。</p> <p>海洋と海洋生物の科学について多面的に学習することで幅広い教養を身につけ、環境と調和した持続可能な社会の実現のためにどうすればよいのかを考えられるようになります。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>・海と海の生物に深い関心があり、主体的な学習意欲を持つ方を歓迎します。</p> <p>・授業内容を良く理解するためには、高校卒業程度の理科に関する知識を持っていることが好ましい。</p>		

科目名	担当者名	概要	キーワード
生物から見た水産業	天野 雅男 河端 雄毅 河邊 玲 松下 吉樹	漁業には、生物資源の特性を理解し、適切に管理し、効率的に漁獲することが求められています。生物の行動や生態の解析、個体群や生態系の特性を明らかにする方法、さらにその結果を漁業に活かす方法について、最新の研究結果を含めて解説します。そして、生態系を保全しつつ持続可能な漁業を実現するためには何をすべきかを考える能力を養います。	漁業管理・生活史・生態学的特性・行動・混獲・バイオロギング
人から見た水産業	亀田 和彦 山本 尚俊 清水 健一	漁船と漁具・漁法には安全性・効率性・環境への配慮が、漁獲と価値形成には流通や経済の視点が欠かせません。これらを切り口に、a)漁獲の対象となる生物が生息する海洋生態系、b)日本では少なくとも縄文時代からヒトだけが持つ道具作成能力に由来する漁具や漁船に関する歴史と現状、c)産業として見る経済学的視点、から話題を提供します。高等学校での生物、物理、公民のかかわりが深い科目です。	人間・水産・漁業・道具・船と航海・漁船漁業・資源と環境・食料問題・持続性
海洋食料資源の応用	市川 寿 濱田 友貴 谷山 茂人 橘 勝康	摂取すべき食品を知り、マリンフードの成分とその変化、多彩さ、製造方法、さらには衛生管理、安全確保に関わる諸問題を理解することで、食に関する今日的な課題にどう対処したら良いかを考えます。	食品機能・食事バランス・食品成分と変化・加工食品、長崎県

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	※授業編成の視点			
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的思考力	計画力	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	国際・地域社会への関心	A 取り扱う 人文科学の内容を	B 取り扱う 社会科学の内容を	C 取り入れる 現代的な話題を	D アクティブ・ラーニングの活用
生物から見た水産業	◎	○	○	○	○		◎	○		○	○		◎	◎	○
人から見た水産業	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	○
海洋食料資源の応用	○	○	○	○	○	○	○	○	◎				○	○	◎
◎(特に重視)の数	2	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	2	2	1
○(重視)の数	1	2	3	3	3	2	2	3	1	2	2	0	1	1	2

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	18-b10 海洋生態系の保全と管理		
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	阪倉 良孝	責任部局	水産学部
趣旨	海洋は生物、鉱物などの様々な資源の宝庫ですが、環境共生型の社会を実現するためには、これらの貴重な資源を有効に利用し、持続的に維持していく必要があります。本モジュールでは、海洋生物資源の生産・培養、管理、持続可能で効果的な漁獲や効率的な利用に関する原理や方法、海洋環境の保全・修復、環境保全のための基本法について、現代社会における実課題例を交えながら学びます。このように、海洋と海洋生物の科学について多面的に学習することにより、幅広い教養と共に、環境と調和した持続可能な社会を実現するためには何をすべきかを考える能力を身につけます。		
学生の皆さんへのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・海と海の生物に深い関心があり、主体的な学習意欲を持つ方を歓迎します。 ・授業内容を良く理解するためには、高校卒業程度の理科に関する知識を持っていることが好ましい。 		

科目名	担当者名	概要	キーワード
海洋の生物と科学	阪倉 良孝 征矢野 清 萩原 篤志	海洋生物（遺伝子資源も含む）の個体、個体群、群集、生態系で起こる様々な生命現象や、海洋生物資源の生産・培養技術について、幅広い視点から講義します。モジュールⅠ「海の生物と多様性」の応用篇とした位置づけです。具体的には長崎県の養殖の事例を交えながら完全養殖を達成するプロセスを見ていきます。	多様性・プランクトン・魚類・繁殖・生態・養殖・長崎県
海洋環境と保全	鈴木 利一 SATUITO CYRIL GLENN	海洋環境を保全する意義を理解するため、沿岸の無脊椎動物幼生・付着生物・浮游生物に着目し、個体・個体群・群集に関する基礎的知見を踏まえ、環境被害と対策、海洋における人間活動への影響等の内容を学習します。	無脊椎動物幼生・付着生物・浮游生物・沿岸環境
環境関連法とアセスメント	近藤 能子 山下 敬彦 竹下 哲史 久保 隆	環境問題に関する考え方、国際環境法や国内の環境基本法の理念について学び、現在の海洋環境問題を捉えていきます。水質汚濁や護岸工事等の公共事業から自然環境を保全・修復していくことを目的とした環境アセスメントの手法やその評価について、また、海洋生態系の劣化を抑制していく技術革新について、考えていきます。	国際環境法・環境基本法・環境アセスメント・養殖の未来技術・海洋環境問題

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	※授業編成の視点			
												A	B	C	D
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的思考力	計画力	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力	国際・地域社会への関心	取り扱う人文科学の内容を	取り扱う社会科学の内容を	現代的な話題を取り入れる	アクティブラーニングの活用
海洋の生物と科学	◎	○			○		○	◎		○	◎		○	◎	◎
海洋環境と保全	○	○					○	◎		○	○		○	○	◎
環境関連法とアセスメント	◎	◎			◎		○	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	◎
◎(特に重視)の数	2	1	0	0	1	0	0	3	0	0	2	1	1	2	3
○(重視)の数	1	2	0	0	1	0	3	0	1	3	1	0	2	1	0

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	18-b11 社会と文化の多様性		
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	東 史彦	責任部局	多文化社会学部
趣 旨	<p>グローバル化が広く進展している現在、われわれはこれまで以上に「世界を知る」必要に迫られている。そして、このことは必然的に「日本(と日本人)を知る」ことをわれわれに求める。なぜなら、他者を理解するためにはまず、自らが何者かという問いに深く思いを巡らさなければならないからである。</p> <p>本モジュールでは、日本、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、世界といった空間軸の間で視野を柔軟に調整しつつ、文化、社会、歴史、宗教、芸術、言語、交流、法律などの視点から世界と日本を考察することによって、多様な他者と同時に多様な自己をも理解することをめざす。そこからグローバル化にもなっている様々な多文化状況に適応する素養と思考力を身につけることが本モジュールの教育目標である。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>グローバル化が急速に進むなかで、われわれは社会的・文化的・言語的に多様性を持つ様々な組織の一員として生活し、働くこととなります。「世界を知り、日本を知る」ことは「他者を理解し、自己を省みると同時に相対化する」ことに繋がる知的な営みであり、またそうした多文化状況で生きていく上で必要不可欠な能力でもあります。本モジュールを受講することで是非そのような力を身につけて下さい。</p>		

科目名	担当者名	概 要	キーワード
世界の中のヨーロッパ	東 史彦	EUは、加盟国間を物、人、サービス、資本が自由に移動できる領域を創設している。このようなEUの地域統合が、世界やその他の地域で行われている統合の動きとどのように異なるかを理解するため、EU加盟国間における物や人の自由移動のルールや事例と、一般的な国家間における物や人の移動のルールや事例とを比較する。	グローバリゼーション、移民、EU法、国際法、国際経済法、国際人権法、憲法
宗教から見た日本	滝澤 克彦	日本の宗教文化は、その風土を反映し多様性と混合性に富む。この授業では、仏教やキリスト教といったいわゆる「組織宗教」ではなく、神社の祭りや儀礼、民間信仰といった多様な信仰の形をとりあげ、その宗教文化の特徴に迫る。また、以上の観点を踏まえた上で、長崎の宗教民俗文化に対する理解も深める。	宗教文化、民間信仰、祭り、儀礼、靈魂観、生老病死、長崎
未定	未定		

全学モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	※授業編成の視点				
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的思考力	計画力	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	関心	国際・地域社会への	A	B	C	D
													取り扱う 人文科学の内容を	取り扱う 社会科学の内容を	取り入れる 現代的な話題を	アクティブ・ラーニングの活用
世界の中のヨーロッパ	○		○	○	○			◎		○	◎	○	◎	◎	◎	○
宗教から見た日本	○			○	◎		○	○			◎	◎	○	○	○	○
未定																
◎(特に重視)の数	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	1	1	1	0	0
○(重視)の数	2	0	1	2	1	0	1	1	0	1	0	1	1	1	2	2

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	18-b12 文化の交流と共生		
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	賽漢卓娜	責任部局	多文化社会学部
趣旨	<p>グローバル化が広く進展している現在、われわれはこれまで以上に「世界を知る」必要に迫られている。そして、このことは必然的に「日本(と日本人)を知る」ことをわれわれに求める。なぜなら、他者を理解するためにはまず、自らが何者かという問いに深く思いを巡らさなければならないからである。</p> <p>本モジュールでは、日本、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、世界といった空間軸の間で視野を柔軟に調整しつつ、文化、社会、歴史、宗教、芸術、言語、交流などの視点から世界と日本を考察することによって、多様な他者と同時に多様な自己をも理解することをめざす。そこからグローバル化にもなっている様々な多文化状況に適応する素養と思考力を身につけることが本モジュールの教育目標である。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>グローバル化が急速に進むなかで、われわれは社会的・文化的・言語的に多様性を持つ様々な組織の一員として生活し、働くこととなります。「世界を知り、日本を知る」ことは「他者を理解し、自己を省みると同時に相対化する」ことに繋がる知的な営みであり、またそうした多文化状況で生きていく上で必要不可欠な能力でもあります。本モジュールを受講することで是非そのような力を身につけて下さい。</p>		

科目名	担当者名	概要	キーワード
世界と日本の文化交流	野上 建紀	考古学の資料の中でも陶磁器は、最も重要なもののひとつである。世界各地で生産され、それぞれの地域や時代を映す「鏡」となっている。そのため、陶磁器を観察すれば各地域の文化や相互の影響関係も理解することができるのである。陶磁器を通して、その背後にある文化交流を読み解き、日本と世界の関わりについて理解を深める。	陶磁器、文化交流、水中考古学、長崎県
芸術で見る世界と日本	王 維	地球に暮らすあらゆる民族は、異なる自然環境、言語や宗教、或いは歴史や社会などの環境に対応し、周辺の民族と交流しながら、その社会でのアイデンティティに支えられた固有の祭礼、芸能や音楽をもってきた。多様な祭礼、芸能や音楽を通して様々な世界を見る視点を学ぶ。	異文化交流、祭礼、芸能、音楽 アイデンティティ、長崎県
アジアにおける人の移動と日本	賽漢卓娜	「グローバル化」の進展に伴い、多様な文化的・社会的・民族的バックグラウンドを背負った人々が「移民」として地球規模で移動するようになり、今の時代を生きる誰もが、人の移動によって生じる諸問題に直面する。この授業ではアジアに焦点を定め、人の移動にかかわる諸現象(移動の経緯、移動をもたらす諸要因や、人の移動による文化交流と新たな社会空間の生成など)を講義することで、アジアと日本の多民族・多文化状況や、異なる言語と文化を持つ人々との共生と協働について理解を深める。	移民、エスニシティ、マイノリティとマジョリティ、社会的包摂と排除

全学モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	※授業編成の視点				
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的思考力	計画力	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	関心	国際・地域社会への	A	B	C	D
													取り扱う 人文科学の内容を	取り扱う 社会科学の内容を	取り入れる 現代的な話題を	アクティブ・ラーニングの活用
世界と日本の文化交流	◎				○			◎			○	◎		○	○	
芸術で見る世界と日本	○				○			◎	○	○	◎	◎	◎	○	◎	
アジアにおける人の移動と日本	○				◎			◎			◎	○	◎	◎	○	
◎(特に重視)の数	1	0	0	0	1	0	0	3	0	0	2	2	2	1	1	
○(重視)の数	2	0	0	0	2	0	0	0	1	1	1	1	0	2	2	